

# 第 40 回北方圏国際シンポジウム参加報告

京都大学大学院 修士 1 年  
金 紗羅

2026 年 2 月 15 日から 18 日に北海道紋別市で行われた第 40 回北方圏国際シンポジウム「オホーツク海と流氷」に参加しました。

私は、「Observations of narwhal sounds from boat-based hydroacoustic recordings in northwestern Greenland: comparison with passive acoustic monitoring」という題目で口頭発表を行いました。本研究は、グリーンランド北西部カナック周辺海域で実施している受動的音響モニタリングとイッカク猟に同行して録音したイッカクの鳴音記録を用い、イッカクの鳴音の特徴を分類し、手法比較を行いました。

今回は初めての英語での口頭発表であり、発表資料の構成や英語でのプレゼンテーション、質疑応答への対応などに多くの課題を実感しました。これらの経験を今後の発表に活かし、より分かりやすく研究成果を伝えられるよう改善していきたいと考えています。

また、北極・南極科学における若手人材育成事業ワークショップでもグリーンランドでの活動報告をさせていただきました。昨年夏に、北極域研究強化プロジェクト(ArCS III)の若手海外派遣プログラムに参加し、グリーンランド北西部カナック村での調査活動を報告しました。また、同ワークショップの最後には、若手研究者の方々とパネルディスカッションにも参加させていただきました。パネルディスカッションでは、今後のキャリアについて考える機会になったと思いました。研究を始めたばかりの学生である私にとって、博士号取得後のキャリアについてのお話を伺う機会はとても貴重で、大変勉強になりました。

懇親会では、私と同じ修士 1 年の方々と交流を深めることができ、みなさんの行動力の高さや積極性、派遣先のエピソードや今後について、とても有意義な議論ができました。

本シンポジウムへの参加は、多くの学びを得る貴重な機会となり、研究者としての経験の糧となるものでした。今後は研究活動に取り組むとともに、自身のキャリアについても主体的に考えていきたいと考えています。

最後に、本シンポジウムへの参加にあたりご支援を賜りました ArCS III プロジェクトの関係者の皆さまに、この場を借りて心より御礼申し上げます。

